

## やさしい病害虫講座 17

### 「忍者、糞隠れの術！」

木村 裕

会員さんからタカサゴユリの葉に黒い泥のような物が付着しているが、これは何ですか？との質問がありました。

非常によく観察されておられます。単なる泥の付着として無視される方が大半だと思いますが、これはユリクビナガハムシと称する虫の幼虫の隠れ家です。そのまま放置するとユリの花はまず咲かないでしょう。

成虫は長さ8ミリ前後、赤褐色の綺麗な甲虫で各種栽培ユリ、野性のタカサゴユリなどの新芽、葉、つぼみなどを餌にしています。ユリ科の植物であってもホトトギスなど名前の後ろにユリと付かないものは食べません。賢いですね。



昔はなかなかお目にかかれなかった虫でしたが、5～6年前から急激に増えています。とくに住宅地内のユリで多発しています。タカサゴユリの増加が後押ししているのかもしれませんが。我が家でもユリが被害を受けており、今年は鉄砲ユリの花を見ることが出来ませんでした。

幼虫は黄橙色の柔らかい虫ですが、自分の糞を背中に乗っけて姿を隠していますので、黒い泥の塊にしか見えません。この粘つく糞を取り除くと色鮮やかな虫が見つかります。

成虫も幼虫もユリの葉を食べます。とくに新芽の部分が大好きで、食入被害を受けるとまず花は咲きません。また、小さなつぼみも好物で齧られ

るとまともな花は咲きません。餌をたらふく食べて大きく成長した幼虫は地中に潜って蛹になり、春～秋に2～3回発生を繰り返します。



この虫の仲間としてお馴染みはクコの葉を齧るトホシクビナガハムシです。幼虫は同じように糞を背中に背負っていますので、泥の塊しか見えません。クコではごく普通に発生し、葉に大小たくさんの孔をあけます。

8月6日の活動日に会員さんからウメの樹にケムシが宴会を開いているとの告げ口がありました。このケムシはモンクロシャチホコという蛾の幼虫で、8月の初めに成虫が数十個～百個の卵を一塊にして葉の裏に産むため、このように突然降って沸いたかのようにケムシ集団が現れます。これを見落としてお盆休みを過ぎて次の活動日に行くと葉を食い尽くされて丸坊主となったウメやサクラが恨めしそうな顔をしています。

この虫は年1回の発生で、毎年8月に発生します。どんな素晴らしいカレンダーをもっているのでしょうか？ 時期を決して誤ることはありません。姿からなんとなく危険な感じがするケムシですがこけおどしで、手で触れても問題はありせんので、集団を見つけ次第処分しましょう。

